

## 2022 年度効果的捕獲促進事業の実施結果について

## 1 目的

渥美半島における野生イノシシの根絶に向けて、有害鳥獣捕獲及び指定管理鳥獣捕獲等事業等による捕獲を強化して取組んでいるが、生息調査のため、山中に設置している自動撮影カメラでは、野生イノシシが継続的に撮影されており、より効率的な捕獲が課題となっている。

そこで、渥美半島（大山山塊及び表浜樹林帯）に適用可能な捕獲方法の確立に向けて、新しい捕獲技術の検討及び試験捕獲を実施する。

## 2 実施結果

## (1) 移動式囲いワナ

佐賀県、群馬県で実績のある移動式囲いワナ（太田式囲いワナ）を使用し、試験的捕獲を実施し、効果を検証した。

設置場所：田原市大草地区、和地地区

設置基数：2 基

設置期間：2022 年 11 月 11 日～2023 年 3 月 10 日

捕獲実績：2023 年 2 月 23 日 1 頭捕獲

	
移動式囲いワナの設置作業の様子	誘引状況
	
捕獲状況（2023. 2. 23）	ワナ破損状況

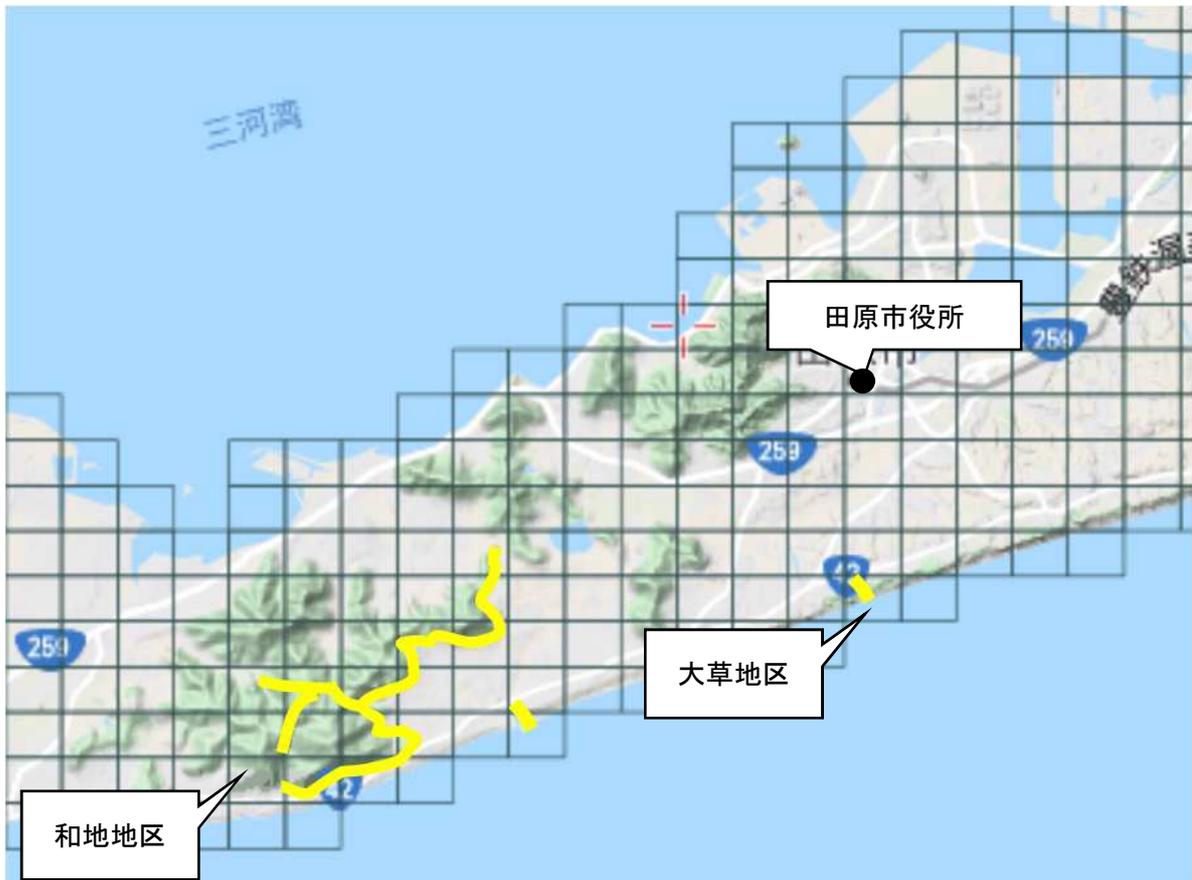
## (2) 簡易柵による囲い込み捕獲

既存の移動防止柵と、仮設の簡易柵を設置することで、生息域を細分化し、閉鎖環境を作った上で、その中に生息する野生イノシシを捕獲する

実施場所・日時：田原市大草地区（2月11日）、和地地区（1月29日、12日、23日）

捕獲方法：銃猟等

実施結果：1月29日：2頭、2月11日：1頭、2月12日：2頭、2月23日：1頭のイノシシを猟犬が発見したが捕獲にはいたらなかった。



### 3 今後の課題

#### 1) 移動式囲いワナ

移動式囲いワナのネットがイノシシやタヌキなどの小動物により穴が開いてしまうため、ワイヤー入りのネット等で強度上げる必要がある。

また、誘引開始から捕獲までに約3ヵ月(104日間)経過しており、一般に使用されている箱ワナに対して顕著な優位性は見られなかったため、給餌、網を下すタイミング等の運用方法をさらに検討する必要がある。

#### 2) 追込み猟

簡易柵による囲いこみ猟で使用した防獣ネットでは強度が低く、イノシシにより穴が開いたため、ワイヤー入りのネット等で強度上げる必要がある。

ただし、エリア内にイノシシを囲い込むことで、効率よくイノシシを発見する事ができたため、実施地域をさらに調査し実施を検討する。